

大科学者の大間違い



忠 祐次

大科学者は、多くの優れた業績を残しているわけですが、そのうちの間違いを後世の科学者から指摘される運命にあるともいえます。

史上、有名な大科学者の大間違いを列挙してみよう。

一、アリストテレス

古代ギリシアのアリストテレス（384～322 BC）は、運動速度 V は駆動力を F 、抵抗力を R とすると、 $V \propto KF - R$ で説明しました。

これを、ガリレオが自由落下において、瞬間速度は経過時間に比例すると訂正しました。

二、コペルニクス

ポーランド人でありローマカトリック教会の聖職者でもあるコペルニクス（1473～1543）は、惑星の運動を円運動により説明しました。

これを、ドイツのケプラー（1571～1630）が惑星の運動は楕円運動であると訂正しました。

三、ガリレオ

イタリアのガリレオ（1564～1642）は円運動を慣性運動であると考えていました。

これを、デカルトが円運動には、中心に向かう力が必要であると訂正しました。

四、デカルト

フランスのデカルト（1596～1650）は真空の存在を否定していました。

これを、ドイツの政治家でもあるゲリケ（1602～1686）が真空ポンプを発明することにより訂正しました。

前述一のアリストテレスについての訂正には、二〇〇〇年もの長い年月を要しました。

近代力学の成立は、アリストテレスの

自然学体系を一つ一つ訂正する過程でもありました。二〇〇〇年もの長い年月を要する難事業であったのは、彼の体系がいかに堅固であったかを物語っています。

さて、今後の課題について述べてみたいと思います。

御承知のように、経済社会では、その発展のために、競争の原理が有効に作用することが必須であることは、歴史が示しています。

一方、科学技術では、知的競争の原理が有効に作用したケースは、古代・中世・近代又東洋・中東・西洋において、多々ありません。現代においても、どうかと思われることがあります。

したがって、今後の課題は、科学技術においても、知的競争の原理の枠組みの設定とその導入が意図的に行なわれるべきであると思いますが、その枠組みとは、どのようなものでしょうか。

（情報管理部システム課長）